

6. 過 程

段階時間	指導内容	留意点
課題は握る 予想 10分	<p>1. 前時の計算の方法について話し合い、本時の内容をつかませる (参考図1)</p> <p>32×3 の計算のしかた ア. $32 \times 3 = 30 \times 3 + 2 \times 3$ イ. $2 \times 3 = 6$ ウ. $30 \times 3 = 90$ エ. $90 + 6 = 96$</p> <p>●(参考図1)の各段階の計算は、既習のどんな事項を使って解決したかを発表させる (2)</p> <p>24×3 の計算例</p> <p>452×3 の計算例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2つの例から、計算の仕方が能率的でないこと、間違いやすいことなどを指摘させる ● 本時のめあてを板書する かけ算を早く正しくする方法 ● 加減算の筆算を想起させる $5 + 3 = \boxed{3458}$ $6 - 4 = \boxed{+2739}$ $3458 + 2739 = \boxed{\text{マスキング}}$ 	<ul style="list-style-type: none"> ●(参考図1)を示して、ア. イ. ウ. エを全員に読ませ、それぞれが、既習のどんな事項を使って求められたものであるかを考えさせ、指名によって発表させる。 ● TP₁ を提示 ● TP₂ を提示 ● TP₃ を提示 大きい数の加減算では、筆算によると答えが機械的に、能率的に求められたことを想起させ、かけ算でも、筆算があれば便利であることに気づかせる
解決 20分	<p>2. かけ算の筆算の方法を考えさせる (1) 32×3 を筆算では、どう表したらよいか考えさせる</p> <p>$32 + 3 \rightarrow \boxed{32}$ $32 - 3 \rightarrow \boxed{32}$ $32 \times 3 \rightarrow \boxed{32 \times 3}$ (マスキング)</p> <p>(2) 32×3 の計算を、自分で考えた方法 $\times 3$ によって行わせ、その計算方法を発表させる</p> <p>(3) かけ算の筆算の計算方法について 32 板書によってまとめる $\times 3$ (30と2にわける)…ア 32 6 ………………イ $\times 3$ $+ 90$ ………………ウ 96 96 ………………エ</p> <p>筆算のしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●位をそろえる ●一の位、十の位に分けて計算する ●かける数の九九を使う 	<ul style="list-style-type: none"> ●加減算の筆算の形から類推させ、位をそろえて表せるようにする ● TP₄ を提示 既習事項と関連づけて、自分の力で新しい計算方法を作り上げようとする意識を強めるようにする ●(参考図1)をもとにして、 <ul style="list-style-type: none"> ・計算順序をどうするか ・部分積とその和をどう書くかに留意させる ●(参考図1)のア. イ. ウ. エ 32×3 の順序をふんだん計算が、 96 と、まとめ上げられることを確認させ、(参考図1)の計算の仕方と比較させ、この方法のよさ(機械的、能率的であること)を印象づけるようにする ●乗数先唱に軽くふれる
強化 10分	<p>3. 筆算の練習をさせる</p> <p>① 34×2 ② 12×4 ③ 42×2</p> <p>●計算の結果を発表させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●プリントによる ●加法で求めた答えとくらべたり、おおよその値とそう違わないことによってたしかめさせたりする ●机間を巡視し、個別指導をする
まとめ 5分	<p>4. 本時のまとめをし、次時の予告をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ●練習問題③を例にして、まとめをする ●24×3 の計算は、本時の問題とどうちがうかについて質問し、次時は、くり上がりのある筆算を学習することを知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ●繰り上がりのある問題を提示することによって、本時の問題は、繰り上がりのない問題であったことに気付かせ、次時の学習への動機付けとする